

①DF

はじめに様々な企業で重役を務めたり、多くの経験を積んだ人生の先輩とも言える方々にお話を伺うことができました。私は自分が就きたいと思う仕事を見つけることが出来ていなかったため今回のお話はどれも私にとって刺激的であり、ためになるものばかりでした。

全体講話では義手を作っている方のお話を聞きました。ものづくりと聞いて私は反射的に苦手だと思いその分野に深く関わろうとすることはこれまでありませんでした。しかし、ものづくりとは言ってもただ製品を製造するだけではなく、商品を手にする顧客一人一人のニーズや気持ちに寄り添ってものを作っていると知り、驚きました。また就きたい職業が決まっていない私にとっては非常に興味のある、その道をめざしたきっかけでは右利きが多いのはなぜだろうという素朴な疑問から手に関する情報を集め義手を作る人への道を決めたとうかがいました。身の回りに溢れているごく普通のことに疑問を持ちそれが今の自分の生活の中心になっているというのが不思議であるのと同時にすごいことだと思いました。

私が興味を持ったのは、ソニーという大企業に就職したのにも関わらず退社し、なぜ義手を作るのを目指すことができたのか。今の私にはその一步を踏み出すことのできる勇気がないので非常に気になりました。すると、「これまでと違う道に進もうとすると、抵抗はあったし、ふあんもあった、反対だってあった。でも、以前の仕事をしている中でしっかり考え行動をしていった上で、ソニーをやめた。何も考えずに行動したわけではなく、出来ることから確実にやっていった。」とおっしゃいました。このお話を聞いた時に、今までの私の中にはない考え方を知ることができました。不安なことがあるのは自分が完璧じゃないからであって、その不安要素を消せるぐらい努力して行動することができれば、不安は無くなるのかも知れないと考えを改めることができました。このお話は今回の研修の中で私の宝物ともなった非常に貴重なお話でした。

その後グループごとにお話を伺いました。まずはじめに若松常美様に建築に関するお話をしていただきました。超高層建築物と言われる 100m 以上の建物は一級建築士しか造ることができないと聞きそれほど慎重かつ繊細な高精度の技術が必要だということを知りました。また建築士をやるにはプライドを持って簡単に妥協しないことが大切だそうです。大きなものを造るのに丈夫で安全な建物を造ることが建築士としての重要な役割であり、これが崩れてしまえば本末転倒になってしまいます。場合によっては、デザインよりも耐久性を優先することを多くあるそうです。建築士を目指して年間約 3 万人の方が国家資格に臨みますが、そこから合格するのはほんの 1 割であり、それほど難しく厳しい職業だということがわかります。若松さんは小学生の頃に近所で工事をしている人々が何もないところに大きな建物を造り上げていく姿をみて不思議に思ったり「すごいなあ」と感心し

ていたそうです。それから大人になるまでずっと変わらず建築士への憧れがあったようです。幼い頃からの夢を叶え大きく花を咲かせている姿をみて、非常に頼もしく大きく見えました。自分の将来の職業がふとしたことから花開くことに憧れる気持ちと、そのたくましさに感銘を受けました。

続いて菅原信夫様にお話を伺いました。そこではこれから私たちがどうしていくべきか、何をするべきなのかなどというこれからの私たちに密接したお話を聞くことができました。今の世の中は大学4年間の生活の後、大学院で2年間過ごすのが前提とされていて、これは世界的にみても普通のことらしいです。これまで私は大学4年間を過ごしたら、企業に就職するものだと思っていましたが、そのような道を進む人は苦勞することや、社会の現状についていけないことがおおいしく、就職後大学院や、企業の大学に入ることになるそうです。なぜなら、大学4年間の生活の中で自分の専門性を見つけ、大学院2年間でそこで見つけた専門性を学ぶことが必要だからです。したがって、大学4年間で卒業後、すぐに就職したい場合は、大学院に入ることができるカリキュラムがある企業や、企業に大学を併設しているところを選ぶ方がいいとのこと。また、私の目指している法学部は法律について学びますが、日本は英語教育がまだまだ遅いために国際法に疎いという短所があります。国際法に強くなることで、少しでも国際社会からの遅れを取り戻し、国際社会への仲間入りをするべく教育の体型を変化することも余儀なくされてくることだろうと思いました。世界の見解からすると、日本の大学生は親に頼りすぎだということです。世界では大学院2年間の費用はアルバイトをして自分で工面をして、それこそ、2年間も通わずにできるだけ早く卒業しできるだけ早く企業で活躍しようとするひが多いにもかかわらず、日本はカリキュラム通り、マニュアル通り、という人が多く競争意識が低いことが問題なのではないかとお話から考えました。自分に身近なお話を聞いて、貴重な経験が出来ました。

最後に土居義範様にお話を伺いました。まず私が気になったのは土居さんが青年海外協力隊の活動に参加されていて、それに対して私は危険なイメージがあり自分だったら参加する勇気が出ないけれどなぜ参加することを決意できたのか、その理由を聞きました。すると土居さんはただ単純にこの活動を経験してみたいという好奇心から参加したそうです。また、この活動に参加することで何かを変えたり、社会にインパクトを与えたいと思ったそうです。現地で実際に貧しい子供達と接した際に自分が行ったことに対して感謝の言葉を言われた時にとてつもないやりがいを感じ、それが素晴らしく感じたそうです。私はただ自分のことしか考えることができませんでしたが、実際に現地に足を運ぶことで感じることを考えさせられること、学ぶことは計り知れなく大きく、重いと思いました。私もいつかどのような立場かは分かりませんが、人や社会に貢献できる活動に参加してみたいです。また、土居さんは現在新しいプロジェクトの開発をされているそうです。例えば、シリアをはじめとする国際問題を聞いて自分たちの財団では何ができるかということを考えているそうです。このプロジェクトは大臣から難民の人々まで様々な人と話すことがで

き、関わることができるいい機会であり、貴重な場だそうです。最後に自分が本当にやりたいことを見つけるにはどうすればいいかという疑問を尋ねました。自分に出来ること、自分のやりたいこと、自分がやる価値のあること、の3つを考え続けることで見えてくるものがあるはずとおっしゃってくださいました。まずはこの3つを実行して将来を見据えて頑張りたいと思いました。私は明確な夢は決まっていますが、海外で仕事をすることに興味があります。そこで3人の方は共通して、自分を表現することの大切さ、相手のことを理解するために必要なコミュニケーション能力、それを養うための聴く力や伝える力といった語彙力を揃ってあげてらっしゃいました。そこから、色々な人、色々な考え、色々な価値観に触れることで学ぶものがあり、成長できると教えてくださいました。どれも生半可な気持ちでは取り組めないと思うので、積極的に自分の行動に責任を持ってこれらのことを少しずつでも実行していこうと思います。

②外務省

続いて私たちのグループは外務省へ向かいました。周囲には他の省庁も集まっていて、非常に緊迫した雰囲気ではありましたが、貴重な体験をさせていただけることに胸が高まってもいました。外務省は外交を中心にやっているといっても、その詳しい内容はほとんど知らなかったため、実際にお話を伺うことで今まで知らなかった内容まで知ることができました。はじめに記者会見室に通ささせていただきました。いつもはテレビの向こう側で見ている世界が目の前にあると思うと、緊張しましたし、強い憧れも抱きました。その後、外交官の方に外務省に関する詳しいお話を聞かせていただきました。

まず驚いたのは外務省は入社後3年目から2,3年間の留学の機会を与えられ、担当している語学が使える国に行くことができるということです。また、外務省は2年おきに担当する部署を変更するそうです。それは、興味のある分野だけでなく、様々な分野について知っている人材になるためにそのような制度にしているそうです。これを行うことで日本の全体像も捉えることができるようになるそうです。

外務省の組織は外務本省と在外公館で構成されています。外務省は海外で働いている人の方が多く、そのうちの在外公館は大使館と総領事館に分類されており、日本政府の意向を相手国政府に伝達する役目を担っています。大使館はそれぞれの国の首都に置かれているのに対し、総領事館は首都とは別の主要都市に置かれ任地の政治、経済その他の情報収集、分析を現地の人々との対話を通して外務本省へ報告しています。外務本省と在外公館の連絡の手段は、書類を電報で送りあって取っているそうです。

続いて外務省の細かい仕事内容について、開発協力(ODA)は特に無償金援助や有償金援助(これから発展していくであろうという国に低い金利でお金を貸すこと)や技術協力(技術者の派遣)を行なっています。このように細かく分けられているとは知りませんでした。

また、外務省には仙台二高の卒業生の方がいらっしゃいました。現在は国連政策課というところに所属していらっしゃいます。この部署は国連が行なっている政策を安全保障理事

会などと連携して活動しているそうです。なぜ、外務省を目指したのかというと、高校の頃から外交官になりたいと思っていたのと、日本と外国をつなぎ、その関係をよりよくする手伝いがしたいと思ったため、そこから東京大学の文科一類に入学し、1年間トロント大学と交換留学も行なったそうです。将来を見据えて計画的に行動していらっしゃる姿が素晴らしいなと思いました。外交官になりたいとは言っても、実際今の私たちにできることはあるのか尋ねると、後々政治や近現代の歴史は絶対に必要となる知識であるため、世界史をしっかりとやっておくと良いと言ってらっしゃいました。また、外交官は想像以上に非常に高い語学力が必要とされるため英語は言わずもがな必須だそうです。歴史はあまり得意ではないので、相当の勉強量を要するなと思いました。しかし、東京大学の文科一類卒業生の方をしてでも、実際に現地で話すときは勝手が違く、非常に苦勞するそうです。したがってこの時もコミュニケーション能力が必要とされてきます。外務省の魅力は、日本で暮らしていたら出会うことのないであろう様々な人々に会い、考えを知ることができるだけでなく、その人たちと共に1つの仕事をするところだそうです。直属である先輩が輝いている姿を見て、自分も頑張ればこの場に立てるかもしれないと希望を持ったのと同時にそのためにはこれまで以上の努力が必要なんだということもしみじみと感じました。

今回の経験は自分の将来像を明確に考えるのに非常に大きな影響を与えてくれました。めったに経験できることではない体験を高校生のうちに行うことができ、本当に貴重な財産だと思います。これまでは何を考えるにも漠然としていて何をすればいいのかわからず低迷していたのですが今回、生の声を聞くことでこれから自分はまず何をすればいいのか自分は何がしたいのかということを考え、知ることができました。この経験を高校生活に生かしたいです。

③座談会

1日目の夜には仙台二高のOB、OGの方々から東京大学に関するお話や高校のうちにやっておくべきことなど、少し前まで二高生だったこともあり少し親近感を感じながら、それでいて緊張感も持ちつつお話を聞きました。お話はどれも実体験を含めた自分たちに関わりの深いもので、非常にためになりました。東京大学には進振りと言われる制度があることを知りませんでした。進振りとは大学1、2年生の時は興味のある授業を受けて、自分がどの分野に進みたいかゆっくり考えることのできる制度です。将来の夢が明確に決まっていない私にとっては非常にありがたい制度だと思いました。実際の授業を通して雰囲気や内容を感じることができ、自分の進路について考える猶予期間が与えられていることに非常に好感を持ちました。何より今の自分に合っているからです。しかし、東京大学といえば日本最難関の大学であるため口だけでなく相当の勉強量を要すると思います。それを踏まえた上でこれからの進路選択をしていきたいと思いました。

続いて東京大学に進学後、理科二類から法学部に変更した方にお話を伺うことができま

した。なぜそうしたかという、一生研究職で食べていくと考えた時に、それは自分に合っていないと判断されたからだそうです。東京大学の法学部は他の大学のように就職困難になる可能性は低いため、自分の将来像を考えた時により良いと思う方を選んだそうです。やはり進路を変更するにもそれまでにしっかりと自分の将来を考えた上で最善だと思う方法を実行していらっしゃるんだということが伝わってきました。

続いて東大生が仙台二高に在学中、どのような勉強法を行っていたかを聞きました。私の苦手な数学や物理においては教科書内容を理解したら問題演習に移り、問題集一冊を繰り返して完璧になるまでやるとのことでした。もし分からずに立ち止まってしまった時は、分からなくなったところから1つ前に戻ってやり、少しずつ戻っていくことが大切だと教えてくださいました。また、学習はとにかくコツコツやることが大切で、どんなに眠くてもどんなに疲れていても1日2時間は必ずやると決めて取り組むと成果が違うとおっしゃっていました。「少しでもいいから毎日やる」ことは簡単そうに見えて実は大変だということには身にしみるほどわかっています。それでも自分に負けずに少しでも学習と向き合える人がより高みを目指すことができるのではないかと考えさせられました。

皆さんとお話をしていて共通していたのは高校2年生の冬には意識を切り替えて受験勉強に取り組み始めていたとのことでした。大学生からお話を聞くことで自分が今やるべきことが現実的にわかったので、皆さんに伝授していただいた学習法を取り入れていきたいと思えます。

今回の東京企業大学訪問を通して、普段は関わることのできない方々からお話を伺うことができ、貴重な体験をすることができました。お話しさせていただいた皆さんは共通して自分の中にしっかりと考えや芯を持っていて、自分をしっかり持っていらっしゃるなど感じました。今回受けた刺激を自分の中で生かしこれからの高校生活をより充実したものにしていきたいと思いました。たくさんの方の協力のおかげでこのような経験をすることができたことを忘れません。そしてこの機会をきっかけに自分の将来についてもう一度考え、見つめ直し続けていきたいと思いました。今回得た知識を有効に活用し将来どの分野に進んだとしても精一杯頑張ります。